【内容紹介の日本語訳】

東亜同文書院中国調査手稿叢刊（全 200 冊）

編著者：中国国家図書館
定価：120,000 元（RMB）（約 200 万円）
ISBN：9787501358144
出版時間：2016 年 9 月 30 日
判型：16K 上製（ハードカバー製本）

～ 内容紹介 ～

東亜同文書院は、近代日本が「中国通」を養成するために設立された高等教育機関である。同校は、清朝末期から 1945 年までの間に毎年のように中国に学生を派遣し、現地調査を実施させてきた。その調査報告書は卒業論文として扱われ、また、日本の外務省や軍部にも送呈された。この調査は合わせて 40 年余り継続され、総計 4000 名余りの日本人学生が 700 近い調査班に分けて派遣され、その足跡は中国の隅々まで及んでおり、まさに「絨毯式」ともいえる現地調査が行われてきた。それを通じて 1000 部余りの調査報告書が作成された。これらの調査は、現代の社会学と人類学の調査方法が用いられており、調査の継続期間や調査の対象地域はいずれも「満鉄」を凌いでおり、調査報告書は極めて詳細に及んでおり、研究者も感嘆させられるほど質の高い調査結果であるといえる。今回刊行した『東亜同文書院中国調査手稿叢刊』は、国家図書館に所蔵されている調査の手稿を底本として編集されたものであり、資料の公開は初めてである。叢刊の調査時期は、1927 年の第 24 期生から 1943 年の第 40 期生までの 16 年間であり、その中には、2000 名近い調査員が書いた約 1000 冊の旅行日誌と 800 冊余りの調査報告書の手稿が含まれている。これらの日誌の手稿は、その後整理出版された年度別の調査日誌（大旅行誌）より遥かに詳しい内容が含まれており、各時期における中国社会の実態、例えば、軍閥統治期に各地で跋扈した土匪の活動状況や、抗日戦争期における学生の従軍見聞録などが記録されている。調査報告書の手稿は一切添削や分別が行われておらず、大量の機密文献がありのまま公開されている。本叢刊は、中国各地の経済や政治、社会など各分野の詳細を記録しており、中華民国史や中国社会史、経済史及び地方史を研究するにあたって極めて重要な資料である。